

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100942		
法人名	社会福祉法人 新清会		
事業所名	グループホーム 桜手苑		
所在地	福井市大手2丁目22番18号		
自己評価作成日	令和 3年 2月 13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 3年 3月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地であり立地に恵まれた環境で散歩や買い物に出掛けやすく介護度にとられる事無くその方に合ったサービスの提供を心掛けています。本来であれば自治会の活動やイベントへの参加を季節を通して行っていますが今年は新型コロナウイルス感染予防の為、苑内で出来る行事のみの参加となってしまいました。今、大切にしている事は家族や馴染みの方との関係性を大切にオンラインリモート、電話、手紙等でやり取りをしながら

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、福井市の中心部に、鉄筋造り5階建様式のビル内2階にあり、近くには小学校、公園、福井城址、図書館等の公共施設が点在している。コロナ禍の影響で外出を縮小しているが、四季の移ろいを感じることができる公園や福井城址は、地域住民との出会いやコミュニケーション交流の場となっている。平成29年に開設した建物の1階部分は、ボランティアや地域の人と交流、家族と一息つける「憩いの場・SOPサロン」となっている。事業所と同じ2階フロアにはデイサービスセンター、3・4階にはショートステイ、4・5階には小規模特別養護老人ホームがあり、協力体制のもと有機的な運営を行っている。特に、「苑訓＝事業所理念」は毎年作り替え、時代に応じた事業方針を明確に掲げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその方らしく生活出来る様、常に話し合いの場を持ちながら支援しています。	法人の事業目的、運営方針を基に、「ユニット理念＝苑訓」を毎年作成している。また毎月実施する職員会議(ユニット会議)で報告と検討を行い、一人ひとりの安心と安全を共有している。利用者や家族には、入所時に法人の目的・方針と共に「ユニット理念」を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での祭りや施設での行事で交流を図り、近くの美容室、スーパー等も利用しています。	町内会に加入しており、地域のイベントには積極的に参加していたが、コロナ禍の影響で出かけることを控えている。事業所1階の「SOP」は、憩いの場として地域に開放しており、利用者も利用できる。地域からの依頼がある事柄(折り鶴制作など)には対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の交流サロンを活かし地域の方との関係築いていける様に体制を整えていきたいと思えます。近くの小学校に対しての福祉施設との交流会を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況を説明し意見をサービス向上に活かしています。	吉岡幸(株)社長が委員長で、2か月に1回開催している。参加者は、建物内事業所苑長と各事業所管理者、公民館長、SOP担当、弁護士が出席。利用者状況、行事、各種取組の実施報告と共に参加者からの意見を聞きサービス向上に繋げている。	会議に家族や利用者が参加することは、運営規程にも明記している。運営への理解を図ると共に、率直な意見交換によりサービス向上や運営に活かせることと、会議録を全家族に届けることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括ケア推進課などに相談、助言、指導を受けながらケアの向上を図っています。	市の介護保険課や地域包括支援センター等と連携を図り、相談、助言、指導等の日常的な関係を築き、事業所の取り組みの報告等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を理解し管理者からの指導、苑内研修での学びを活かし、職員一人一人がお互いに意見を交換しながら支援を行っています。	身体拘束防止マニュアルを整備し、拘束をしないケアを含めた各種研修を実施し、日々取り組んでいる。事業所は建物の2階にあるため出入口を自動施錠しているが、ボタン一つで解錠ができ、同行しながらではあるが、自由な生活を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修を受け管理者からの指導も行っています。言葉や身体的虐待が無い様に指導を受け理解しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前の入居者で制度を利用されていたので実体験している職員もおり研修内容も理解出来ており支援に活用出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間を取り可能な限り理解して頂ける様丁寧な対応を心掛けています。昨年の介護度の改定時にも丁寧に説明を行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や面会時に家族面談を行ったり電話連絡時に意見を伺う様にしています。内容は職員間にて話し合いの場を設けています。	頻繁に家族と連絡を取り合い、日常的な意見聴取、毎月の職員会議及び、独自の「申し送りノート」を活用する事で運営やケアについての意見聴取や情報を職員間で共有できるよう努めている。厨房で、嗜好調査や日常的な関わりの中で意見を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を設けています。	「苑訓」は申し送りノートの表紙に記載している。人事考課制度は取り入れていないが、毎年「自己申告書」の提出によって、園長や管理者と協議できる場がある。日常的なケア、提案、業務改善案等の意見は、毎月の職員会議や「申し送りノート」の利用等によって話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加や資格習得の機会が多くあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識向上の為、苑内研修や外部研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、他事業所職員と意見交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を職員間で共有し関係性を保ちながら出来る限り入居者の話に耳を傾け安心を確保できる様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しの不安でも直ぐに言って頂ける様な関係作りを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の要望を把握し職員同士で話し合いながら支援していける様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のしたい事、やりたい事を見つけ一緒にやっていける様な関係を作れる様に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援内容に変更があった時には家族と意見交換を行いながら適切なサービス提供が出来る様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに利用していた場所へ出掛けたり、1階サロンにて馴染みの方と面会をしたりと関わりの継続に努めています。	利用者の大切な場所や人を把握しているが、コロナ禍の影響で外出や交流支援は減少している。家族が同行する病院受診、理髪店などの外出時に食事や喫茶店の利用等を行っている。ストレスを感じる場合は、おやつの工夫を増やし、テイクアウト外食や1階のサロンなどを積極的に利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな方同士でテーブルを同じにしたりしています。1日の中で状況に変化のある時には職員が中に入り対応しています。フロアにソファも置いて環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護支援専門員が経過後もフォローしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりに注意し本人の希望や思いを聞ける様に努めています。職員同士、情報を共有する事で対応しています。	利用者の思いはパソコンに記録するシステムになっている。新聞記事の話題を伝達し会話につなげ、視線を合わせることで表情から利用者の意向確認をしている。フロア内で、話せる人と話せない人とを分けているのもそうした対応と共有化の一端である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、介護支援専門員から以前の情報やフェースシート、サマリーを確認し職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中でその方の状況等、職員間で連携しながら現状を把握出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員からの情報や意見を全員で話し合い速やかな対応が出来る様に努めています。	介護計画の作成は年1回が原則である。利用者担当は決めていないので、毎月のケア会議で職員全員の意見を聞き、申し送りノートも参考に、計画担当職員は利用者の想いを計画に反映するよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や職員の気づきは記録にて情報の共有に努めています。本人の発した言葉等も記録に残す様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪、嗜好品の買い物等は事業所にて対応している事があります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内に地域交流の場がありボランティア受け入れを行い交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族へお願いしておりその際にホームでの様子を伝えたり必要な記録を持参して頂く様にしています。適切な医療が受けられる様に支援しています。	利用者は希望するかかりつけ医に受診し、基本的に家族が同行、受診時には事業所が用意した日常の様子や必要な記録を持参する。緊急時等、職員が同行した場合は家族へ報告している。主治医と連携できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の心身の変化は記録し看護師や医療機関と情報を共有し速やかな連携が取れる様に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、入院中に職員が病院へ向かい病院関係者との情報交換や今後の対応等、話し合える関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いながら出来る事を職員間で話し合い支援出来る様にしています。	重度化や終末期に向けた指針と対応は、事業所で協議した結果、「看取りはしないが、事業所で食事が摂れるまでは努力する」とし、同法人の特別養護老人ホームでは看取りの実施を始めており、職員も研修に参加している。家族と職員間で継続して協議しているところである。このことは入所契約時に説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルがあり研修参加で知識を深めています。消防による救命救急講習会も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し避難訓練も行っていきます。	各種災害対策マニュアルや緊急連絡網も整備しており、火災訓練は年3回昼夜、出火場所を変えて実施している。自治会主催の防災訓練には職員が参加している。事業所は福祉避難所の指定を受けており、水、食料品、備品等地域分も含め3日分の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなケアは個室にて行い声掛けや対応は尊厳を損なわない様に務めています。	同性介助を原則に、個人を尊重する声かけ等の実践のため内部・外部研修を実施し、職員一人ひとりのケアに反映している。個人情報書類は鍵付きのキャビネットに保管しており、他者が見ることができないよう配慮している。薬は個人選別機に収納し、自動排出のキャビネットがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けにならない様な声掛けを心掛け自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ状況を確認しながら希望に添える様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室への外出支援や馴染みの美容室へ出掛け髪を好きな色に染めている方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食会を行い、メニューや買い物、調理を一緒に楽しみながら行ったり、おやつ作りも行っています。	嗜好調査を実施し、季節に応じた食事、おやつ、月1～2回の行事食を提供している。食前には体操やお話を行い、食器類は自前の食器を使用し、副食は総合厨房で作り、副食器のみ苑の物を使用している。おやつは一緒に調理し楽しんでいる。職員は自前の弁当を利用者と食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた食形態で量にも注意し本人のペースで食べて頂いています。水分の苦手な方にはゼリー飲料を提供したり工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて声掛けや介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解しそれに合わせた声掛けを行っています。	24時間シートを活用し、個人の排泄パターンを把握する事でトイレでの排泄を促し、利用者がトイレで排泄できるようさりげない支援をしている。オムツ使用は1名だが、部屋にトイレはなく、夜間ポータブルや離床センサーの利用もない。下剤を服用することなく自然に排泄できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後のヨーグルトの提供や都度、牛乳を提供し様子観察を行っています。その方の状態に応じ服薬での対応も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介助、週2回の入浴を基本としています。職員の都合で日時決定を行わない様になっています。	週2回、利用者の希望にもよるが基本的に午前中に入浴を実施している。拒否がある場合は無理強いないで本人のペースに合わせ、日曜日以外毎日入浴が可能な支援をしている。入浴剤は用いず、一人が終わると湯を張り替えている。機械浴などが必要になれば建物内事業所の利用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	持参された馴染みの寝具を使用している方もあり就寝時間もその方に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は1冊にまとめられており職員がいつでも確認出来る様になっています。状態の変化があった時に対応出来る様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事、得意な事を理解し日々の活動に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に希望する物などあれば計画を立てて外出したり、近くであれば散歩しながら買い物へ行く等の対応をしています。	コロナ禍の影響で、外出のための支援が極端に減ってしまったが、通院、理髪、季節イベント、買物など状況を見つめながら行っている。日常的には、建物内を利用し歩行や室内イベント、レクリエーションなどを通して気分転換への工夫を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に預かり金がある為職員付き添いの元使える様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望されれば使用して頂いています。年賀状、暑中お見舞い等のやり取りも行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様に飾りつけや絵、写真等を工夫しています。	ホールは四季の飾りつけ、作品に配慮し、落ち着いた空間を作っている。高い天井、大きな窓からの採光により、明るい環境で全体に温かみも感じる。ホール全体に嫌な臭いもなく清潔感がある。調理部分と事務所部分の場所はカウンターでホールと分けることができるように少し高めに作っており、程よい仕切りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファや畳を置いてあるので好きな場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限は無く、自宅で使用していた馴染みの物を置いておられる方もいらっしゃいます。	居室入口は、名札の他に写真、折り紙、造花を飾っている。居室空間は使い慣れた家具等を持ち込み、自由にレイアウトできるようになっている。家族の写真や手作りの装飾品等を程よく飾り、ベッドがあっても、広く清潔感のあるプライベート空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではあるが壁全体に手すりは設けず自立を促している。個室内も本人の使いやすい様にタンスの向きなどは工夫しています。		